

令和4年度 スポーツ団体（社会教育関係団体）補助金・分担金事業（案）【スポーツ関係】

資料1-1

（単位：千円）

団体名及び所在地	団体規模等	令和4年度 予算案	令和3年度 予算額	増△減	主な事業名	事業内容
（公財）東京都体育協会 新都区霞ヶ丘町4-2	49競技団体 59地区体協 3学校体育連盟 が加盟	970,071	1,035,108	△ 65,037	<ul style="list-style-type: none"> <li>・競技力向上事業</li> <li>・ジュニア育成地域推進事業</li> <li>・都民体育大会</li> <li>・都民体育大会合同開会式</li> <li>・シニアスポーツ振興事業</li> <li>・総合型地域スポーツクラブ登録・認証制度の実施 等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国体候補選手など東京アスリートの競技力向上事業</li> <li>・小中高生を対象としたスポーツ教室やスポーツ大会などを実施</li> <li>・都民体育大会を開催</li> <li>・都民体育大会と東京都障害者スポーツ大会の合同開会式を開催</li> <li>・各地区の体育協会が高齢者を対象に行うスポーツ教室や講習会などの事業を支援</li> <li>・総合型地域スポーツクラブの質的充実を図る取組として実施 等</li> </ul>
（公財）東京都スポーツ文化事業団 渋谷区千駄ヶ谷1-29-9 日本パティビル3階	—	1,298,641	943,910	354,731	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東京都スポーツ施設予約システム</li> <li>・スポーツ東京案内</li> <li>・テクニカルサポート事業</li> <li>・ジュニアスポーツアジア交流大会</li> <li>・広域スポーツセンター事業費補助</li> <li>・都立スポーツ施設映像配信システムの構築</li> <li>・スポーツ推進企業EnjoySports促進事業</li> <li>・スポーツ気運継承事業</li> <li>・参加型スポーツイベントの開催によるスポーツ振興事業</li> <li>・都立特別支援学校活用促進事業 等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東京都スポーツ施設予約システムの管理運営</li> <li>・webサイト「スポビタ」の運営や区市町村等へ競技・レクリエーションの指導者を派遣</li> <li>・大学との連携による選手へのスポーツ医・科学に基づいたサポート事業などを実施</li> <li>・海外各都市からジュニア世代のスポーツ選手や指導者を招き、交流試合や指導者交流を実施</li> <li>・広域スポーツセンターが行う人材の養成や研修事業、指導者派遣事業などを補助</li> <li>・都立のアリーナを有するスポーツ施設において、大会等の映像配信が可能な環境を構築</li> <li>・スポーツ推進企業に対して、スポーツインストラクター等の派遣を実施</li> <li>・スポーツイベントの広報を統一・広域的に実施し、都民のスポーツ情報に触れる機会を創出</li> <li>・事業団が実施する参加型スポーツイベントに係る経費を補助</li> <li>・都立特別支援学校の体育施設を貸し出すとともに、誰もが参加できる体験教室を実施 等</li> </ul>
（公社）東京都障害者スポーツ協会 新都区神楽河岸1-1 飯田橋セントラルプラザ12階	—	645,258	642,773	2,485	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障害者スポーツ地域サポート事業</li> <li>・障害者のスポーツ施設利用促進事業</li> <li>・障害者スポーツ人材の活動活性化事業</li> <li>・TOKYOパラスポーツチャンネル</li> <li>・障害者スポーツ次世代ホープ発掘事業</li> <li>・東京パラアスリート強化事業</li> <li>・パラスポーツ人材地域活動促進事業</li> <li>・東京都障害者スポーツ大会 等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・区市町村や各団体等への事業相談・支援、指導員派遣、用具貸与等を行う事業</li> <li>・障害者が身近なスポーツ施設を利用する際の配慮や工夫等の事例を収集・発信し、施設管理者等へ普及啓発</li> <li>・障がい者スポーツ指導員や障害者スポーツボランティア等の活動を促進し、資質を向上</li> <li>・東京近郊で開催される大規模なパラスポーツ大会等をテレビ・Webで中継・配信</li> <li>・障害者スポーツの次世代ホープを発掘・育成</li> <li>・東京ゆかりのパラアスリートの競技活動支援や、スタッフの活動環境の整備等を行う事業</li> <li>・都にゆかりのあるアスリート等が都内各地域で講師や指導者として活動する機会を創出</li> <li>・東京都障害者スポーツ大会の開催及び全国大会への派遣選手の選考 等</li> </ul>
（一社）東京都レクリエーション協会 渋谷区千駄ヶ谷1-29-9 日本パティビル3階	地域団体、 種目団体、 領域団体等 計75団体が 加盟	16,364	23,150	△ 6,786	<ul style="list-style-type: none"> <li>・都民スポレクふれあい大会</li> <li>・東京みんなのスポーツ塾</li> <li>・シニアスポーツ振興事業</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子供から高齢者までを対象とした、ニュースポーツやレクリエーション大会の開催</li> <li>・ニュースポーツの指導者養成を目的とした講習会を実施</li> <li>・レクリエーション団体が高齢者を対象に行うスポーツ教室や講習会などの事業を支援</li> </ul>
（一社）東京都スポーツ推進委員協議会 新都区西新宿6-12-6 コアロード西新宿1302	59地区協議会 1,508人	2,520	2,520	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東京都スポーツ推進委員研修会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相互の連携を図り、資質の向上を目的とする研修会の開催 （課題別研修、地区別研修（11ブロック）及び地域スポーツ支援研修）</li> </ul>
東京都市町村体育協会連合会 府中市寿町1-5 特定非営利法人府中市体育協会内	30市町村	910	910	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東京都市町村総合体育大会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市町村に居住する社会人を対象とした総合体育大会の開催</li> </ul>
合計		2,933,764	2,648,371	285,393		

令和4年度 スポーツ団体（社会教育関係団体）補助金・分担金事業（案）【学校体育関係】

資料1-2

(単位：千円)

団体名及び所在地	団体規模等	令和4年度 予算案	令和3年度 予算額	増△減	事業名	事業内容
東京都高等学校体育連盟 新宿区西新宿2-8-1 東京都教育庁指導部内	都内高等学校が加盟	4,646	4,646	0	東京都高等学校総合体育大会	約13,000名の高校生が参加して開催される総合体育大会。陸上競技等35種目が行われる（4月中旬～2月下旬、駒沢リトルック公園総合運動場ほか）
東京都中学校体育連盟 文京区本郷1-3-3 東京都教職員研修センター409室	都内中学校が加盟	5,596	5,596	0	東京都中学校総合体育大会	約23,000名の中学生が参加して開催される総合体育大会。陸上競技等20種目が行われる（5月中旬～1月上旬、駒沢リトルック公園総合運動場ほか）
東京都高等学校体育連盟定時制通信制部 新宿区西新宿2-8-1 東京都教育庁指導部内	都内定時制・通信制高校が加盟	3,459	3,459	0	東京都高等学校定時制通信制総合体育大会	約4,000名の定時制・通信制の高校生が参加して開催される総合体育大会。陸上競技等13種目が行われる（9月中旬～11月下旬、駒沢リトルック公園総合運動場ほか）
東京都ろう学校体育連盟 立川市栄町1-15-7 都立立川ろう学校内	都内ろう学校が加盟	833	833	0	東京都ろう学校総合体育大会	約300名のろう学校の生徒が参加して開催される総合体育大会。野球等3種目が行われる（8月中旬～9月下旬、駒沢リトルック公園総合運動場ほか）
東京都特別支援学校・特別支援学級設置学校体育連盟 港区港南3-9-45 都立港特別支援学校内	都内特別支援学校・特別支援学級設置学校が加盟	1,814	1,814	0	東京都特別支援学校・特別支援学級設置学校総合体育大会	約4,800名の生徒が参加して開催される総合体育大会。陸上競技等6種目が行われる（9月上旬～2月中旬、駒沢リトルック公園総合運動場ほか）
日本中学校体育連盟 東京都新宿区霞ヶ丘4-2 Japan Sport Olympic Square 401号室	全国の中学校が加盟	0	14,000	△ 14,000	全国中学校体育大会	令和3年度は、東京都で新体操・相撲の2種目を開催。令和4年度は、北海道・東北ブロックで開催予定。
全国高等学校定時制通信制軟式野球連盟 足立区中央本町1-3-9 都立足立高等学校内	全国の定時制・通信制高校が加盟	835	835	0	全国高等学校定時制通信制軟式野球大会	地域代表25校約400名の定時制・通信制の生徒が参加して開催される全国軟式野球の大会（8月下旬、明治神宮野球場ほか）
全国高等学校体育連盟定時制通信制部会 千代田区一ツ橋1-1-1 全国高等学校体育連盟内	全国の都道府県高等学校体育連盟定時制通信制部会が加盟	765	765	0	全国高等学校定時制通信制体育大会	地域代表の定時制・通信制の生徒が参加して開催される全国大会。東京では、陸上競技をはじめ3種目が行われる（7月下旬～8月中旬、駒沢リトルック公園総合運動場ほか）
関東聾学校体育連盟 長野県長野市三輪1-4-9 長野県長野ろう学校	関東地域の1都9県のろう学校が加盟	200	0	200	関東聾学校体育大会	関東地区のろう学校の代表が参加して開催される大会。令和4年度の東京開催は、硬式野球（高等部）1種目。（8月上旬、駒沢リトルック公園総合運動場）
関東高等学校体育連盟 新宿区西新宿2-8-1 東京都教育庁指導部内	関東地域の1都7県高等学校体育連盟が加盟	800	200	600	関東高等学校体育大会	関東地区の高等学校代表生徒が参加して開催される大会。令和4年度は東京で女子バレーボール等4種目が行われる。
関東中学校体育連盟 文京区本郷1-3-3 東京都教職員研修センター409室	関東地域の1都7県中学校体育連盟が加盟	800	600	200	関東中学校体育大会	関東地区の中学校代表生徒が参加して開催される大会。令和3年度は、ソフトボール等3種目を開催。令和4年度はバスケットボール等4種目が行われる。
合計		19,748	32,748	△ 13,000		

## オリンピック・パラリンピック準備局 令和4年度組織改正について

令和3年度

オリンピック・  
パラリンピック  
準備局

総務部

計画  
推進部パラリン  
ピック部大会  
施設部スポーツ  
推進部

令和4年度

## 政策企画局

新

オリンピック・  
パラリンピック  
調整部

○東京2020大会調整業務

管理課

調整課

## 生活文化スポーツ局

新

スポーツ  
総合推進部

○スポーツ推進

企画調整課

スポーツレガシー  
活用促進課

スポーツ課

国際大会課

パラスポーツ課

新

スポーツ  
施設部

○都立スポーツ施設の戦略的活用、管理運営、整備

調整課

施設整備第一課

施設整備第二課

# オリンピック・パラリンピック準備局 令和4年度予算案(概要)

〔政策企画局、生活文化スポーツ局に組織再編〕

## I 事業体系と予算額

## 生活文化スポーツ局移管分

(単位：千円)

事業名	令和4年度 予算案	令和3年度 予算額	増(△)減
①管理費	4,418,236	3,889,597	528,639
②スポーツ総合推進費	8,098,045	6,768,530	1,329,515
スポーツ総合推進管理事務	126,548	110,289	16,259
スポーツ総合推進管理事務(二次)	79,376	61,574	17,802
企画調整	47,172	48,715	△ 1,543
公益財団法人東京都スポーツ文化事業団助成	64,483	65,918	△ 1,435
東京都スポーツ文化事業団運営費補助	48,887	49,047	△ 160
広域スポーツセンター事業費補助	15,596	16,871	△ 1,275
スポーツの振興	4,223,518	1,467,085	2,756,433
生涯スポーツの振興・地域スポーツの振興 (Ⅱ-1参照)	300,353	279,302	21,051
スポーツムーブメントの創出 (Ⅱ-2参照)	569,866	565,074	4,792
スポーツを通じた被災地交流事業 (Ⅱ-3参照)	37,488	0	37,488
大会のレガシーを継承する取組 (Ⅱ-4参照)	2,567,811	122,709	2,445,102
区市町村におけるスポーツ振興施策への支援 (Ⅱ-5参照)	748,000	500,000	248,000
総合的な競技力向上施策の推進 (Ⅱ-6参照)	1,382,078	1,095,741	286,337
競技スポーツの振興	1,072,229	966,693	105,536
スポーツ国際交流事業	309,849	129,048	180,801
マラソン祭りの開催等 (Ⅱ-7参照)	390,814	361,989	28,825
パラスポーツの振興 (Ⅱ-8参照)	1,910,604	2,166,235	△ 255,631
パラスポーツの振興	1,910,604	1,406,312	504,292
パラリンピック普及啓発事業	0	759,923	△ 759,923
大会開催に向けた普及啓発 他	0	1,501,273	△ 1,501,273
③スポーツ施設費	14,842,618	12,328,986	2,513,632
スポーツ施設管理事務	123,739	185,070	△ 61,331
体育施設等の運営	7,182,373	8,515,667	△ 1,333,294
体育施設等の企画調整	160,237	211,566	△ 51,329
体育施設等の運営 (Ⅱ-9参照)	3,521,415	4,935,829	△ 1,414,414
新規恒久施設の管理運営	3,500,721	3,368,272	132,449
体育施設等の整備 (Ⅱ-10参照)	7,536,506	3,606,262	3,930,244
大会施設管理事務	0	21,987	△ 21,987
<b>生活文化スポーツ局分計(①+②+③)</b>	<b>27,358,899</b>	<b>22,987,113</b>	<b>4,371,786</b>

## 政策企画局移管分

管理費	2,608,971	8,402,000	△ 5,793,029
オリンピック・パラリンピック調整費	988,339	380,830,887	△ 379,842,548
<b>政策企画局分計</b>	<b>3,597,310</b>	<b>389,232,887</b>	<b>△ 385,635,577</b>

<b>生活文化スポーツ局分+政策企画局分計</b>	<b>30,956,209</b>	<b>412,220,000</b>	<b>△ 381,263,791</b>
---------------------------	-------------------	--------------------	----------------------

## Ⅱ 主要事業

### 1 生涯スポーツの振興・地域スポーツの振興 3億 35万円

- 多くの都民が参加できる各種大会の開催、高齢者の健康維持・増進を図るシニアスポーツ振興事業等を実施
- 総合型地域スポーツクラブの質的充実を図るため登録・認証制度を実施するほか、引き続きクラブの支援を実施
- スポーツ推進企業の交流用Webサイトの活用、スポーツインストラクター等の派遣など、スポーツ推進企業の取組を促進

### 2 スポーツムーブメントの創出 5億 6,987万円

- 都民のスポーツ気運の醸成に向け、スポーツイベントの開催、国際大会の支援等を実施
- スポーツイベントの広報を統一的・広域的に実施し、都民のスポーツ情報に触れる機会を創出
- 子供同士や親子で楽しく遊べる外遊びやお家でできる運動等を動画配信することにより、運動機会を創出
- スポーツジム等と連携し、子供や高齢者が楽しく取り組めるフィットネスを紹介

### 3 スポーツを通じた被災地交流事業 3,749万円

- 東京2020大会を契機に、これまで築いてきた被災地との絆をレガシーとし、被災3県と連携し、新たなスポーツ交流事業を展開

### 4 大会のレガシーを継承する取組 25億6,781万円

- 大会1周年の機会を捉え、大会の開催意義、感動や記憶を共有するとともに、数々のレガシーを活用し、スポーツ振興を促進
- 東京2020大会アーカイブ資産等の活用
- 地域と一体となった、誰もが楽しめる自転車のイベントを実施するとともに、大会等の開催に向けて計画を策定する

### 5 区市町村におけるスポーツ振興施策への支援 7億4,800万円

- 区市町村が実施するスポーツ実施率やパラスポーツの関心度向上に資する事業や、スポーツ環境の整備・促進に向けて区市町村が行う施設整備の事業を支援

### 6 総合的な競技力向上施策の推進 13億 8,208万円

- 東京2020大会を契機に高めた競技力向上のレガシーを最大限継承し、東京のアスリートの競技力向上を図るとともに、東京のアスリートが、その経験をもとに地域で活躍し、スポーツの裾野を拡大する循環を創り出していく。
- 東京都が開催都市となり、令和4年度に国民体育大会関東ブロック大会を開催

### 7 マラソン祭りの開催等 3億 9081万円

- ランナー・応援者・ボランティアなど全ての参加者が一体となるスポーツイベントとして、東京マラソン、マラソン祭りを開催
- 東京2020大会のパラリンピックコースを活用した東京レガシーハーフマラソンを開催

### 8 パラスポーツの振興 19億 1060万円

- 障害者が身近な地域でスポーツができる環境の整備、パラスポーツを支える人材の裾野拡大と質の向上、観戦機会の提供等を通じたパラスポーツの理解促進・普及啓発、国際大会で活躍するパラアスリートの継続的な輩出に向けた競技力向上事業等、パラスポーツを社会に根付かせるため、様々な事業を実施

### 9 体育施設等の運営・新規恒久施設の管理運営 70億 2,214万円

- 既存体育施設  
東京体育館、駒沢オリンピック公園総合運動場、東京武道館、東京辰巳国際水泳場、有明テニスの森公園テニス施設、若洲海浜公園ヨット訓練所、武蔵野の森総合スポーツプラザ、東京都障害者総合スポーツセンター、東京都多摩障害者スポーツセンター、東京パラスポーツトレーニングセンター
- 新規恒久施設  
夢の島公園アーチェリー場、海の森水上競技場、カヌー・スラロームセンター、大井ふ頭中央海浜公園ホッケー競技場、東京アクアティクスセンター、有明アリーナ

### 10 体育施設等の整備 75億 3,651万円

- 駒沢オリンピック公園総合運動場など既存体育施設等の改修整備工事の実施
- 東京アクアティクスセンターなど新規恒久施設の大会後改修工事等の実施

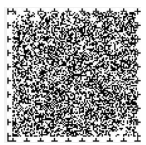


資料 3

# TOKYOスポーツレガシービジョン

2022年1月21日

東京都



# 東京2020大会

## オリンピック

2021年7月23日～8月8日（17日間）

選手数11,417名(205NOC\*+難民選手団)

42会場

33競技・339種目

世界新・ベスト：7競技26種目\*\*\*

\* NOC：国内オリンピック委員会

\*\* NPC：国内パラリンピック委員会

\*\*\*ボートの世界ベスト6種目を含む

## パラリンピック

2021年8月24日～9月5日（13日間）

選手数4,403名(162NPC\*\*+難民選手団)

21会場

22競技・539種目

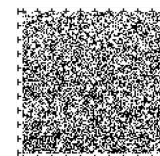
世界新：6競技158種目

# 大会の成果を東京のスポーツレガシーへ

- 東京2020大会は、大会史上初の延期という困難を乗り越え、都民・国民をはじめ関係者の皆様の協力を得て、2021年夏に開催が実現されました。
- 安全・安心の対策に万全を期し、205の国内オリンピック委員会と162の国内パラリンピック委員会、全ての国際競技連盟の参加を得て、全ての競技を行うことができました。
- コロナ禍という特殊な環境下でも、アスリートが練習を積み最高のパフォーマンスを発揮する姿は、都民・国民に勇気と感動をもたらしました。スポーツの力を改めて実感させられた瞬間でした。
- 大会を通じて、スポーツ施設の整備やバリアフリーの進展などハード面が充実するとともに、スポーツ実施気運やパラスポーツへの関心の高まり・大会を支えたボランティアの活躍といったソフト面のレガシーも多く芽生えています。
- これらのレガシーは、アスリートが常に最善を尽くすように、弛まぬ努力によって未来に受け継いでいかなければなりません。
- 大会の成果が実感される今、それを今後どうスポーツの振興に活かし、都市の中で根付かせていくか、その姿を示すため「T O K Y Oスポーツレガシービジョン」をとりまとめました。
- 都は、機を逃さず、大会で得た成果をスポーツフィールド東京の実現につなげていきます。

## 目 次

- 1 | 都立スポーツ施設の戦略的活用
- 2 | 国際スポーツ大会の誘致・開催
- 3 | スポーツの場を東京の至る所に拡大
- 4 | パラスポーツの振興
- 5 | 東京のアスリートの活躍
- 6 | ボランティア文化の定着
- 7 | 未来へのメッセージ







東京アクアティクスセンター



有明アリーナ



海の森水上競技場

# 1 都立スポーツ施設の 戦略的活用

アスリートや競技団体から  
高い評価を得た大会施設。  
トップレベルの試合に触れ、  
都民に親しまれる  
スポーツの拠点が誕生。



3 カヌー・スラロームセンター



大井ふ頭中央海浜公園ホッケー競技場



夢の島公園アーチェリー場



## これまでの振り返って

- **大会を契機に、東京のスポーツインフラはバージョンアップ**
  - 新規恒久施設の整備や既存施設の改修に加え、身近なスポーツの場の整備を支援
  - アーバンスポーツやパラスポーツ等、大会のレガシーを活かした施設の整備検討に着手



## 今後の取組

- **18施設のネットワークでポテンシャルを最大限発揮**
  - 発信力の強化
  - ニーズ対応力の強化
  - 一体的取組によるスポーツ振興
- **各施設を最大限活用するための3つの取組**
  - スポーツでの更なる活用
  - 多様な活用による新たな体験の提供
  - 施設・地域との連携
- **各施設の特性を活かし、多様な活用を推進**
  - 最新の国際水準の設備を有する新規恒久施設、長年都民に親しまれてきた既存施設、それぞれの特性を活かし、多様な活用を推進



東京体育館



味の素スタジアム



駒沢オリンピック公園  
総合運動場

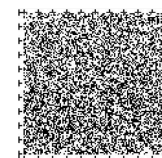


武蔵野の森  
総合スポーツプラザ



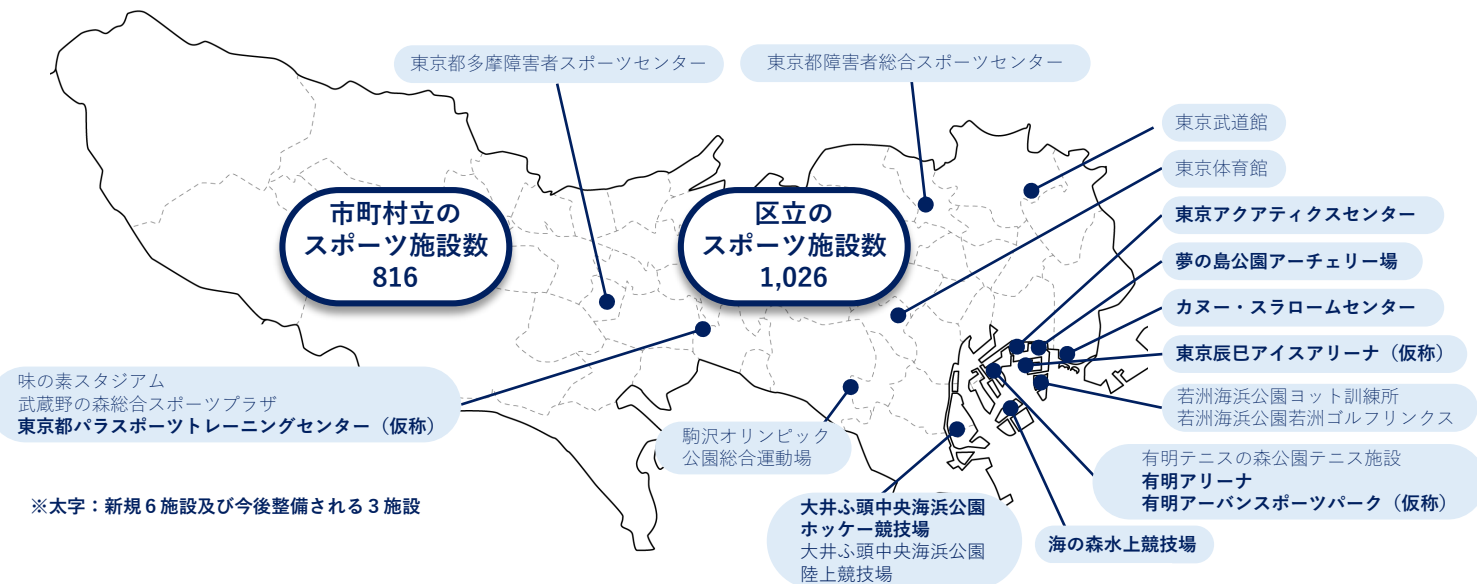
## 都民の皆様に届ける価値を最大化

- 大会のレガシーとして、都民にかけがえのない価値を提供
- 一人一人が健康で豊かに暮らせる東京を実現



## 大会を契機とした東京のスポーツインフラのバージョンアップ

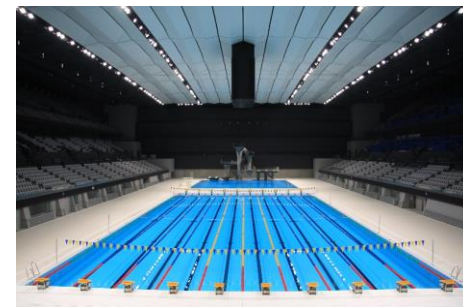
6つの新しい施設の整備、既存施設の改修による機能強化などに加え、身近なスポーツの場の整備を支援



### 新規恒久施設

#### ▶最新の国際水準の設備

- 新規6施設を整備



東京アクアティクスセンター

### 身近なスポーツの場

#### ● 区市町村の地域スポーツ施設の整備支援

(2014～2019年度累計実績)

交付先：48区市町村

件数：248件

実績：約71億円



文京スポーツセンター多目的室新設

#### ● TOKYOスポーツ施設サポーターズ事業

(2018～2020年度累計実績)

協力先：14団体(17施設) 件数：1,581件

#### ● 都立学校活用促進モデル事業

(2016～2020年度累計実績)

貸出：25校・5,488日 教室：299回・7,608人

### 都立公園内の運動施設

大井ふ頭中央海浜公園  
陸上競技場、若洲海浜公園  
若洲ゴルフリンクスなど  
42施設

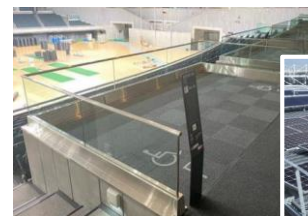


若洲海浜公園  
若洲ゴルフリンクス

### 既存施設

#### ▶より利用しやすい施設に

- バリアフリー化を推進



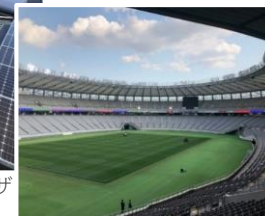
東京体育館

- 設備機能の強化

LED照明、  
リボンビジョン、  
高密度Wi-Fi



武蔵野の森総合スポーツプラザ



味の素スタジアム

- 再生可能エネルギーの導入

# 1 都立スポーツ施設の戦略的活用

今後も更なるバリアフリー化や再生可能エネルギー設備の導入等により、防災面も含め、施設をバージョンアップ加えてアーバンスポーツやパラスポーツへの関心の高まりなど大会のレガシーを活かし、引き継いでいく施設も誕生

## 有明アーバンスポーツパーク(仮称)

- 大会時の仮設競技施設を活用した大会レガシーゾーンをはじめ、若者に人気のある都市型スポーツの場を整備
- スポーツを楽しむとともに、地域の賑わい創出に貢献する施設を併設
- 民間事業者の創意工夫を活かす運営手法について検討

### 大会レガシーの活用

- スケートボード
- スポーツクライミング (ボルダリング)
- 3x3 バスケットボール

スケートボード

スケートボード  
初心者エリア

※ 大会レガシーゾーンのイメージ

屋内ボルダリング棟

拡大図

3x3 バスケットボール

## 東京都パラスポーツトレーニングセンター(仮称)

- 味の素スタジアム内の室内施設をパラスポーツの施設として整備
- 練習利用や指導者養成など、パラスポーツの競技力向上拠点
- 障害の有無に関わらずパラスポーツに親しむことのできる施設



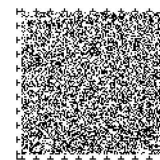
2022年度末  
開業予定

## 東京辰巳アイスアリーナ(仮称)

- 氷上スポーツの国際大会、国内大会、都大会等の主要大会の場として活用
- 初心者・親子連れなど、誰もが氷上スポーツに親しめる場



2025年度  
開業予定

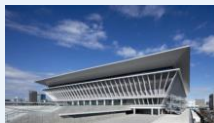


## 18施設のネットワークでポテンシャルを最大限発揮

大規模な競技大会から  
都民のスポーツ実践まで幅広い活用



夢の島公園  
アーチェリー場



東京アクアティクス  
センター



東京体育館



駒沢オリンピック  
公園総合運動場



東京武道館

18施設のネットワークで  
ポテンシャルを最大限発揮

スポーツ、エンターテインメントなど  
多様な活動の場



有明アリーナ



武蔵野の森総合  
スポーツプラザ



有明テニスの森公園  
テニス施設



味の素スタジアム



海の森水上競技場



大井ふ頭中央海浜公園  
ホッケー競技場



カヌー・スラローム  
センター



若洲海浜公園  
ヨット訓練所



有明アーバン  
スポーツパーク(仮称)



東京辰巳  
アイスアリーナ(仮称)

多様なスポーツ体験を提供  
(水上・氷上・アーバンスポーツなど)



東京都障害者総合  
スポーツセンター



東京都多摩障害者  
スポーツセンター



東京都パラスポーツ  
トレーニングセンター(仮称)

障害者のスポーツの拠点

### 発信力の強化

- 18施設の魅力やスペックを一体的に内外にプロモーション
- 幅広いスポーツ体験機会の総合的な発信

### ニーズ対応力の強化

- 様々な規模の大会の開催
- 多様な利用メニューの提供
- 施設コンシェルジュ機能の強化

### 一体的取組によるスポーツ振興

- 共通コンセプトによるスポーツイベントの開催
- 複数の施設が連携した大規模大会の開催

## 各施設を最大限活用するための3つの取組

大会のレガシーを活かし、**スポーツ振興の拠点**として更なる活用を図りつつ、エンターテインメントやユニークベニュー、最先端技術の活用などで**新たな体験**を提供するとともに、**施設や地域との連携**を進め、施設が持つポテンシャルを最大限発揮



### スポーツでの 更なる活用

スポーツを「する・みる・支える」場として競技大会での利用、都民利用、アスリートの練習会場としての利用を進め、障害の有無に関わらず、スポーツを通じた都民の健康づくりと競技力向上を推進



競技大会



都民利用



練習利用



### 多様な活用による 新たな体験の提供

各施設の設備・立地や民間のノウハウを活用し、スポーツの新たな魅力を引き出していくとともに、エンターテインメントやユニークベニューなど幅広い活用を進め、都民に新たな体験を提供



エンターテインメント



ユニークベニュー



最先端技術



教育



### 施設・地域との 連携

他のスポーツ施設とのネットワークや、周辺施設、地域との連携を深め、多様なニーズに対応するとともに、地域からのスポーツ振興に加え、地域の魅力向上や活性化に寄与



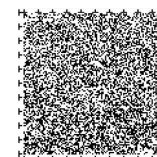
施設間連携



地域との連携



スポーツツーリズム



## 各施設の特性を活かし、多様な活用を推進

大会を契機に整備された最新の国際水準の設備を有する新規恒久施設、伝統ある競技大会の開催などにより長年都民に親しまれてきた既存のスポーツ施設、それぞれの特性を活かし、多様な活用を推進していく

### 夢の島公園アーチェリー場

広大な芝生広場を活かし、アーチェリーでの利用を推進するとともに、多目的な活用を図るなど、夢の島公園と一体となって都民の憩いの場を提供していく

**大会等を通じたアーチェリーの競技力の向上**  
(国内大会の誘致、  
アーチェリー体験教室の開催など)

**多様なスポーツでの利用拡大**  
(ブーメラン、フライングディスクなど)

**都民の憩いの場としての利用**  
(地域住民の交流の場としての開放)

**芝生広場での各種イベント誘致**  
(グルメイベント、ランニングイベントなど)



©Tokyo 2020 / Meg Oliphant



### 海の森水上競技場

アジア最高峰の国際競技場として、水上スポーツの拠点とするとともに、広大な陸上エリアや東京湾のダイナミックな景観を活かしたユニークベニューとして活用していく

**競技大会や合宿を通じたアスリートの強化・育成**  
(国内外の大会誘致、強化合宿の受入など)

**国内競技の強化拠点化**  
(アスリート育成の拠点化に向けた検討)

**水上スポーツ等の機会の提供**  
(水上レジャー、アウトドア体験など)

**ユニークベニュー利用の促進**  
(ロケ地利用、企業研修、レセプションなど)

**地域と連携したスポーツの場の提供**  
(総合型地域スポーツクラブの検討など)

**隣接する公園との連携による利用促進**  
(音楽イベント、キャンプなど)



©Tokyo 2020 / Kenta Harada



**取組①**  
スポーツでの更なる活用

**取組②**  
多様な活用による新たな体験の提供

**取組③**  
施設・地域との連携

### 大井ふ頭中央海浜公園 ホッケー競技場

国際水準のホッケー場として、競技力強化や普及・振興の場とするとともに、多目的球技場として、様々なスポーツやレクリエーションの総合的な拠点にしていく

**競技大会や合宿等によるホッケーの競技力向上**  
(各種大会や強化合宿の誘致、  
ホッケー教室の開催など)

**多様なスポーツを楽しむ場**  
(ラクロス、サッカー、アメフトなど)

**スポーツ、レクリエーション利用の拡大**  
(フットサル、タッチラグビーなど)

**周辺施設や地域住民との連携**  
(スポーツツーリズム、ボランティア活用など)



©Tokyo 2020 / Meg Oliphant



## 取組① スポーツでの更なる活用

### カヌー・スラロームセンター

国内唯一の人工スラロームコースを活用し、アスリートの強化育成や都民への様々な水上スポーツ・水上レジャーの機会提供とともに、隣接する公園と連携し賑わいを創出する

**競技大会や練習利用によるアスリートの強化・育成**  
(国内外の大会誘致、選考会の実施など)

**国内競技の強化拠点化**  
(アスリート育成の拠点化に向けた検討)

**水上スポーツ・レジャー体験機会の提供**  
(ラフティングツアー、水上遊具など)

**ユニークベニュー利用の促進**  
(ロケ地利用、企業研修など)

**施設全体を活用したイベント誘致**  
(カヌー関連のイベント誘致など)

**隣接する公園との連携による利用促進**  
(共通チケットの検討など)



## 取組② 多様な活用による新たな体験の提供

### 有明アリーナ

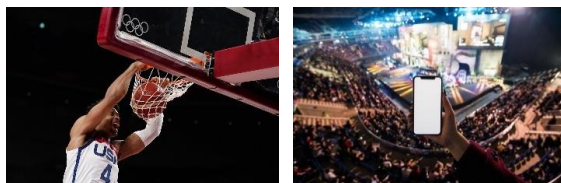
コンセッションにより民間ノウハウを最大限活かし、東京の新たなスポーツ・文化の拠点として、国際大会やプロリーグの開催、コンサート等のイベント開催など、多種多様なコンテンツを提供していく

**大規模スポーツ大会の開催**  
(国内外の大規模大会誘致など)

**スポーツイベントの創出に繋がる多様な事業展開**  
(プロスポーツチームとの連携による事業展開など)

**最先端技術を用いたスポーツ体験**  
(XR(VR/AR等)を活用したスポーツ観戦など)

**エンターテインメントの場の提供**  
(コンサート、各種イベント・ショーなど)



©Tokyo 2020 / Ken Ishii

## 取組③ 施設・地域との連携

### 東京アクアティクスセンター

日本水泳の中心となる世界最高水準の水泳場として、幅広い世代に利用いただくとともに、施設のスペックをフルに活かし、多様な活用を推進していく

**国内外の大会開催等による競技力の向上**  
(国内外の大会誘致、選考会の実施など)

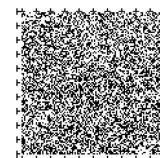
**水泳の更なる裾野拡大**  
(オリンピック・パラリンピックによる水泳教室など)

**最先端技術によりアスリート育成をサポート**  
(5G環境を活用したハイレベル練習など)

**プールを活用した各種イベント誘致**  
(水泳関連のイベント誘致など)

**都民が健康増進に取り組める場の提供**  
(子供体操教室、ヨガイベントなど)

**周辺施設との連携によるコンテンツ提供**  
(屋外空間を活用したミニコンサートなど)



©Tokyo 2020 / Ken Ishii



## 取組① スポーツでの更なる活用

### 東京体育館

大規模スポーツ大会の開催  
(国内外の大規模大会誘致など)

大会レガシーの活用  
(「卓球レガシー」の活用、  
周辺スポーツ施設との連携など)



©Tokyo 2020 / Meg Oliphant

### 若洲海浜公園 ヨット訓練所

海上スポーツの普及・促進  
(パラセーリング体験、  
子供ヨット教室など)

若洲海浜公園若洲ゴルフリンクス等  
の周辺施設と連携した事業の展開  
(ファミリー向け体験イベントなど)



## 取組② 多様な活用による新たな体験の提供

### 駒沢オリンピック公園 総合運動場

公園と連携した  
スポーツ事業の展開  
(ナイトヨガ、ジョギング大会など)

産官学連携事業の実施  
(近隣大学のアスリートによる  
スポーツ教室など)



### 武蔵野の森 総合スポーツプラザ

多摩のスポーツ拠点としての  
更なる活用  
(大規模大会誘致、  
大会レガシーの活用など)

エンタメなど多様な利用の促進  
(コンサート、ダンス競技大会など)



©Tokyo 2020 / Meg Oliphant

## 取組③ 施設・地域との連携

### 東京武道館

都内武道錬成の拠点としての  
活用促進  
(全国大会や関東大会等の誘致など)

日本文化を伝える  
スポーツ事業の展開  
(茶室なども活用した武道ツーリズムなど)



### 障害者スポーツセンター (総合・多摩)

身近な地域での  
パラスポーツ活動の支援  
(自治体等への障がい者スポーツ  
指導員の派遣など)

他施設と連携した  
パラスポーツ普及  
(車いすテニス教室、パラセーリング体験など)



### 有明テニスの森公園 テニス施設

国内随一のテニス施設としての  
活用促進  
(国際レベルのテニス大会誘致など)

コロシウム等施設の  
多様な活用  
(エンターテインメント、  
車いすテニス教室など)



### 味の素スタジアム

スポーツとエンターテインメント  
による更なる活用促進  
(サッカーと音楽イベントの同時開催など)

地域と連携した施策の展開  
(周辺施設と連携したウォーキングイベントなど)



## 都民の皆様に届ける価値を最大化

各施設を戦略的に活用し、そのポテンシャルを最大限発揮させることで、スポーツ体験や健康づくりをはじめ、多様な価値を提供

### スポーツ体験



©Tokyo2020/Meg Oliphant



バージョンアップしたスポーツ施設で  
多種多様なスポーツ体験・観戦が可能に



©Tokyo2020/Meg Oliphant

### 健康づくり

スポーツ体験の拡充により、障害の有無に関わらず、都民のウェルネスを実現



## Version Up!

### アスリートの力

快適でハイレベルな練習環境を提供。  
選手の活躍により、スポーツ気運を向上



### 子供たちの夢

様々なスポーツ体験や観戦機会の  
提供を通じて感動を届け、夢を育む

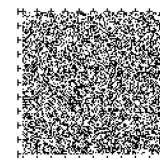


### 潤いある生活

エンターテインメント等に触れる機会を提供し、  
生活における楽しみと潤いを創出

## スポーツ施設は、未来への投資

大会のレガシーとして、都民にかけがえのない価値を提供し、  
一人一人が健康で豊かに暮らせる東京を実現





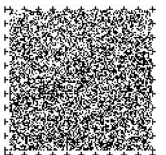
# 新規恒久施設

● 競技利用 ◆ 一般利用・その他の利用

2021 (令和3) 年度		2022 (令和4) 年度				2023 (令和5) 年度			
10-12月	1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月
<h2>カヌー・スラロームセンター</h2>									
● 日本選手権/NHK杯 ◆ 施設見学会		レガシーツアー ● 日本選手権/NHK杯 ◆ 再開イベント ◆ スポーツの日 ◆ 親子カヌー体験 ◆ 障害者カヌーボランティア講習 ◆ 障害者カヌー体験会 ◆ レスキュー講習 ● 競技団体による練習利用		● 日本選手権/NHK杯 ● 競技団体による練習利用		● 日本選手権/NHK杯 ● 競技団体による練習利用		● カヌー・アジア選手権	
		7月23日 一部再開業		換水点検 (1-2月)		4月頃 本格再開業		換水点検 (1-2月)	
ラフティング・カヤック体験等を開催									
※今後予約調整									
<h2>有明アリーナ</h2>									
		◆ オープニングコンサート① ◆ 大会レガシースポーツイベント ◆ オープニングコンサート② ◆ オープニングコンサート③		● 国際スポーツ大会 ● 国際スポーツイベント ● 国内スポーツリーグ戦 ◆ 障害者スポーツイベント ● 国内スポーツイベント		● 国際スポーツ大会 ● 国際スポーツ大会		● 国際スポーツイベント	
		8月頃 開業		レガシーツアー		レガシーツアー		レガシーツアー	
毎月5～6件程度の国内外音楽イベント									
<h2>東京アクアティクスセンター</h2>									
◆ 施設見学会		施設見学会 (工事と調整の上、実施)		レガシーツアー		再開業 (4月頃)		※今後予約調整	
						● 日本選手権(競泳) ● 日本選手権(AS) ● ジャパンオープン ◆ 再開イベント ● 全国JOCジュニアオリンピック		● 日本選手権(水球) ● 日本学生選手権(競泳) ● KOSUKE KITAJIMA CUP ● 全国JOCジュニアオリンピック	
個人利用や水泳教室など									
<h2>(参考) 東京辰巳国際水泳場</h2>									
● 日本学生選手権水泳競技大会 ● 日本選手権(25m)		● 日本選手権(AS) ● 全国JOCジュニアオリンピック ● 日本選手権(競泳)		● 国体関東ブロック大会(AS) ● 国体関東ブロック大会(水球) ● 日本ASチャレンジカップ ● 全国JOCジュニアオリンピック ● 日本学生選手権水泳競技大会		● 日本選手権(水球) ● 日本選手権(25m) ● ジャパンオープン		● 全国JOCジュニアオリンピック	

東京アクアティクスセンターの開業に伴い、競技大会等を引き継ぎ

アイスアリーナへの改修工事



注：各施設の2022 (令和4) 年度分の利用予定は一部を除き予約済みのものであり、その他の予定は、現時点で利用意向を受けているものであり、今後予約調整を行います。現時点での主な利用予定であり、今後新たな予約受付等により変更となる場合があります。



©Tokyo 2020 / Meg Oliphant



©Tokyo 2020 / Meg Oliphant



©Tokyo 2020 / Meg Oliphant

# 2 国際スポーツ大会の誘致・開催

アスリートが輝いた競技施設。  
最高のパフォーマンスが感動を呼び、  
スポーツの素晴らしさを伝えた。

## 大会に寄せられた世界からの声

NOC全体を代表し、このような安全で成功した大会を開催してもらったことに対して、日本人に永遠に感謝する。

- Acting ANOC President (ANOC・NOC連合会会長代行) Robin Mitchell

出典：Tokyo 2020 - ANOC Messages  
<https://myemail.constantcontact.com/Here-s-a-quick-update-from-us-.html?soid=1129672503632&aid=fXvbmDBs7ic>

素晴らしかった。偉大な経験だった。圧倒された。  
コミュニティも、全てが本当にエキサイティングだった。

- Nadine Weratschnig (カヌー スラローム) オーストリア

出典：Athletes from around the world offer praise and thanks to Tokyo and Japan  
<https://olympics.com/ioc/news/athletes-from-around-the-world-offer-praise-and-thanks-to-tokyo-and-japan>

日本は異次元の世界のようだった。敬服し本当にインスパイアされた。  
東京のエネルギーを吸収し、それが今日の結果につながった。

- Vladyslav Zahrebelnyi (陸上男子走り幅跳びT37の金メダリスト)ウクライナ

出典：Tokyo 2020 wrap-up: Best Para athletics quotes  
<https://www.paralympic.org/news/tokyo-2020-wrap-best-para-athletics-quotes>



©Tokyo 2020 / Kenta Harada



©Tokyo 2020 / Ken Ishii

大会では競技施設に高い評価。今後、大会の運営経験も活かし、これら競技施設の魅力を最大限に発揮し、積極的に国際スポーツ大会の誘致・開催に取り組む。ハイレベルな競技の観戦機会が広がる。

## これまでを振り返って

- **優れた競技施設が都内に多く集積**  
大会を通じアスリートや国際スポーツ界から高い評価  
アクセシビリティも確保  
→ 既存施設に新規施設が加わり、対象競技や会場の選択肢が拡大
- **アスリートの活躍とスポーツ観戦への関心の高まり**  
→ 大会でのアスリートのパフォーマンスが子供たちにも夢と勇気を与えた
- **東京の都市の力が大会運営を支えた**  
輸送、ロジスティクス、宿泊、医療、テクノロジー、人材、危機管理等の総合力を発揮  
→ 困難な環境でも世界最大のスポーツの祭典を実現



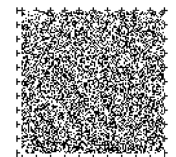
©Tokyo 2020 / Ken Ishii

## 今後の取組

- **【多種多様な国際スポーツ大会を東京へ】都立スポーツ施設を戦略的に活用**
  - ・ 18施設のネットワークで規模の大小・多様な種目に対応し、国際大会を誘致・開催
  - ・ 施設の仕様や最先端設備の情報、活用事例を集約発信し利用につなげる
- **【国際スポーツを東京へ】誘致・開催を促進**
  - ・ 国内競技団体の誘致活動や開催に向けた取組をサポート
  - ・ 競技別に国際大会の開催年次や規模を把握し支援制度の活用を促進
  - ・ パラスポーツについては、パラリンピック競技に限らず支援対象を拡充
- **【観戦機会の拡大】スポーツの力に触れる場を広げる**
  - ・ 子供たちがトップアスリートの活躍に触れ、スポーツの価値を学ぶ場を提供
  - ・ 間近で国際スポーツ大会を観戦しスポーツへの関心を高める場を都民に提供
- **【東京のプレゼンス向上】国際スポーツ都市・東京の魅力をPR**
  - ・ 競技施設や都市基盤の集積、開催能力、安全・安心、食など都市の魅力をアピール
  - ・ 東京2020大会、ラグビーワールドカップ2019™など大規模国際大会の都内開催実績の発信

## 今後予定されている国際大会の例

- **WMHマスターズホッケー  
ワールドカップ 2022東京**  
2022年10月19～29日  
大井ふ頭中央海浜公園ホッケー競技場  
駒沢オリンピック公園総合運動場
- **イオンカップ世界新体操クラブ選手権**  
2022年10月20～23日 東京体育館
- **柔道グランドスラム東京大会**  
2022年12月2～4日 東京体育館
- **2023年カヌー・アジア選手権**  
2023年10月 海の森水上競技場  
カヌー・スラロームセンター



様々な国際大会が開催され、スポーツの賑わいを都市の活力へ



©Tokyo 2020 / Meg Oliphant

©Tokyo 2020 / Kenta Harada

# 3 スポーツの場を 東京の至る所に拡大

コロナ禍でもベストを尽くす  
アスリートの姿が共感を呼んだ。  
大会を機にスポーツへの関心が  
大きく高まった。

オリンピック 33競技・339種目

世界新・ベスト：7 競技26種目\*

\*ボートの世界ベスト6種目を含む

パラリンピック 22競技・539種目

世界新：6 競技158種目



©Tokyo 2020 / Meg Oliphant

©Tokyo 2020 / Kenta Harada

©Tokyo 2020 / Meg Oliphant

大会を機に盛り上がったスポーツへの関心。これを、都民の「する・みる・支える」につなげていく。いつでもどこでもスポーツに触れられる場を拡大し、世界最高水準のスポーツ実施率を実現する。

## これまでを振り返って

- **スポーツ実施率70%を目標に、スポーツ気運を高めてきた**  
参加体験型イベント等を開催し、都民のスポーツ実施を促進  
→ 都民のスポーツ実施率：39.2%（2007年）→ 68.9%（2021年）
- **多様な主体との連携を進めてきた**  
区市町村や企業・団体等の多様な主体と連携し、ともにスポーツを推進  
→ 東京都スポーツ推進企業：102社（2015年）→ 333社（2021年）

## 都民のスポーツ実施率



## 今後の取組

- **【スポーツ気運の更なる向上】** これまでの取組を発展させ、スポーツの魅力を拡大
  - ・ 大会で注目されたアーバンスポーツの体験をはじめ、スポーツイベントの魅力を向上
  - ・ 誰でも気軽に楽しめるレクリエーションスポーツの体験機会を充実
  - ・ スポーツイベントの情報を集約・発信、スポーツ月間等のキャンペーンを展開
- **【企業や地域との連携の促進】** パートナーと協力し、オール東京でスポーツを推進
  - ・ 交流会の実施や専用サイトでの企業の取組発信・共有により、企業の参画を更に促進
  - ・ 区市町村の取組をソフト・ハードの両面から支援し、地域のスポーツ環境を拡充
- **【スポーツの裾野の拡大】** 様々なニーズに応じて、スポーツとの新たな接点を創出
  - ・ オフィス街等でのプロモーションにより、忙しいビジネスパーソンの運動機会を提供
  - ・ DX\*も活用したスポーツイベントの開催など、新しいスポーツの楽しみ方を発信
  - ・ 大会のレガシーとして、地域と一体となった、誰もが楽しめる自転車のライドイベントなどの実施や大会等の開催

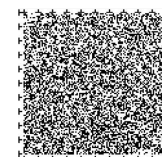
\*デジタルトランスフォーメーション



参加体験型イベント



VRを活用したイベント



「する・みる・支える」の充実で、日常にスポーツが溶け込んだまちへ





©Tokyo 2020 / Kenta Harada



©Tokyo 2020 / Kenta Harada



©Tokyo 2020 / Kenta Harada

# 4 パラスポーツの振興

パラリンピアンが示すスポーツの無限の可能性に  
日本も世界も沸いた。

大会を通じ共生社会への関心が大きく高まった。

フィールドでのエキサイティングな競技結果に加えて、東京2020大会はパラリンピック・ムーブメント発展にとって大きな成功となった。スポーツを最高のレベルで提示し、卓越と人間性について本当に多くのストーリーを共有し、スポーツが世界全体に如何にポジティブなインパクトを与えることができるかを示した。

- カナダパラリンピック委員会会長 Marc-André Fabien

出典：CANADA CONCLUDES TOKYO 2020 PARALYMPIC GAMES WITH 21 MEDALS  
<https://paralympic.ca/news/canada-concludes-tokyo-2020-paralympic-games-21-medals>



©Tokyo 2020 / Kenta Harada



©Tokyo 2020 / Kenta Harada



©Tokyo 2020 / Kenta Harada

大会で脚光を浴びたパラスポーツ。その盛り上がりをもっと高め、パラスポーツを普及させていく。  
障害の有無を問わずパラスポーツを楽しみ、観戦し、交流するための取組を推進し、共生社会の実現に貢献していく。

## これまでを振り返って

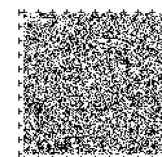
選手の発掘・競技力向上とともに、パラスポーツへの関心拡大やファン獲得を進めてきた

- **パラスポーツ応援プロジェクト「TEAM BEYOND」**  
情報発信やイベントによりパラスポーツのファンを拡大。企業・団体の取組を後押し  
→ メンバー：個人や企業など140万人以上（2021年11月末現在）
- **パラリンピック体験プログラム「NO LIMITS CHALLENGE」**  
競技体験などを通して、パラリンピックの魅力を体感できる機会を提供  
→ 2019年度末までに都内全区市町村で実施。約22.5万人が参加



## 今後の取組

- **【幅広いパラスポーツの普及と人材の育成】ファンの拡大と交流**
  - ・ ボッチャ等を通じ、障害のある人もない人も参加し、交流できるイベントを充実
  - ・ 競技の観戦機会とユニバーサルなスポーツとして楽しむ体験機会、それぞれの充実
  - ・ 大会で活躍したボランティアに、継続して情報を提供し、支える人材の裾野を拡大
- **【きっかけを提供】パラスポーツに取り組む障害のある人を応援**
  - ・ パラリンピックを機に興味を持った人に、身近な地域での体験機会を提供
  - ・ 「競技」だけでなく「健康・楽しみ」の面からも広く参加を促進
- **【場の確保】「だれでも、どこでも、いつまでも」を実現**
  - ・ 施設のバリアフリー情報等も発信。特別支援学校体育施設も更に活用
  - ・ デジタル技術を活用し、重度障害者等の参加を支援
  - ・ 地域でのスポーツ・福祉・医療・教育の協働を後押しし、様々な楽しみ方を提供
  - ・ 東京都パラスポーツトレーニングセンター（仮称）を開設（2022年度末予定）
  - ・ スポーツ施設におけるパラスポーツの利用を促進



# 大会を契機に進んだ共生社会への

## パラスポーツ応援プロジェクト TEAM BEYOND

パラスポーツで、未来を変えよう



パラスポーツを応援する人を増やすため、東京都が展開しているプロジェクト。アスリート、スポーツをする人・観る人・支える人、企業・団体等、140万人以上が参加



## NO LIMITS CHALLENGE NO LIMITS SPECIAL



パラリンピック競技体験プログラム。都内全区市町村と連携し、2019年度末までに約22.5万人が参加。ウェブ版も開設。

NO LIMITS  
SPECIAL 2020



大会22競技を体験体感！SPECIALも実施。

## パラスポーツ次世代選手 発掘プログラム

運動能力の測定や競技体験会を開催。国際大会で活躍するパラアスリートを継続的に輩出。大会後の競技体験会では前年の約2倍の応募



## 東京2020パラリンピックの成功と バリアフリー推進に向けた懇談会

2019年5月29日設置  
パラアスリート、学識経験者、各界で活躍されている方々をメンバーとして設置。メンバーは「パラ応援大使」として、パラスポーツの魅力やバリアフリーの推進について広く発信



※2021年12月16日  
「パラスポーツの振興とバリアフリー推進に向けた懇談会」  
として再スタート

## 大会を契機としたバリアフリー化の取組

### 競技会場

車いす使用者が様々な場所から観戦できるように、  
車いす使用者席を水平方向や垂直方向に分散して配置

トイレを、車いす対応、乳幼児対応などの  
利用形態に応じて分散して配置



有明アリーナ



東京アクアティクスセンター



有明アリーナ

### 道路

段差解消、視覚障害者誘導用  
ブロックの設置等



有明コロシウム周辺

### 鉄道駅

ホームドアの設置等



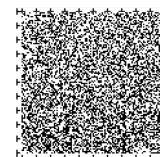
J R 中央・総武線各駅停車  
千駄ヶ谷駅

### 宿泊施設

客室のバリアフリー化を促進



バリアフリー化された客室例  
(京王プラザホテル)





# 5 東京のアスリートの活躍



## 日本選手団

### オリンピック

**583名**出場 (過去最多)  
男子306名、女子277名

**58個**のメダル獲得 (過去最多)  
金27個、銀14個、銅17個

### パラリンピック

**254名**出場 (過去最多)  
男子148名、女子107名  
1人が2競技に出場

**51個**のメダル獲得  
金13個、銀15個、銅23個

## 東京都の発掘・育成・強化選手

### オリンピック

**60名**出場  
男子29名、女子31名

**9名**がメダル獲得※  
金4個、銀5個、銅1個

### パラリンピック

**62名**出場  
男子35名、女子27名

**16名**がメダル獲得※  
金1個、銀4個、銅14個

※複数メダルを獲得した選手を含むため、人数とメダル数は一致しない

東京パラスポーツスタッフ認定者  
34名(メダリスト2名)参加

大会では都が発掘・育成・強化してきた選手も多数出場し、メダリストも誕生。  
東京のアスリートが、その経験をもとに地域で活躍し、スポーツの裾野を拡大する循環を創り出していく。

## これまでを振り返って

- **競技力の向上**  
大会に向けて実施してきた施策により、東京のアスリートの競技力が向上
- **躍動するアスリート**  
東京のアスリートが子供たちに夢や希望を与え、競技スポーツの裾野が拡大

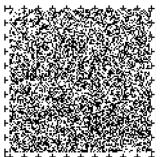
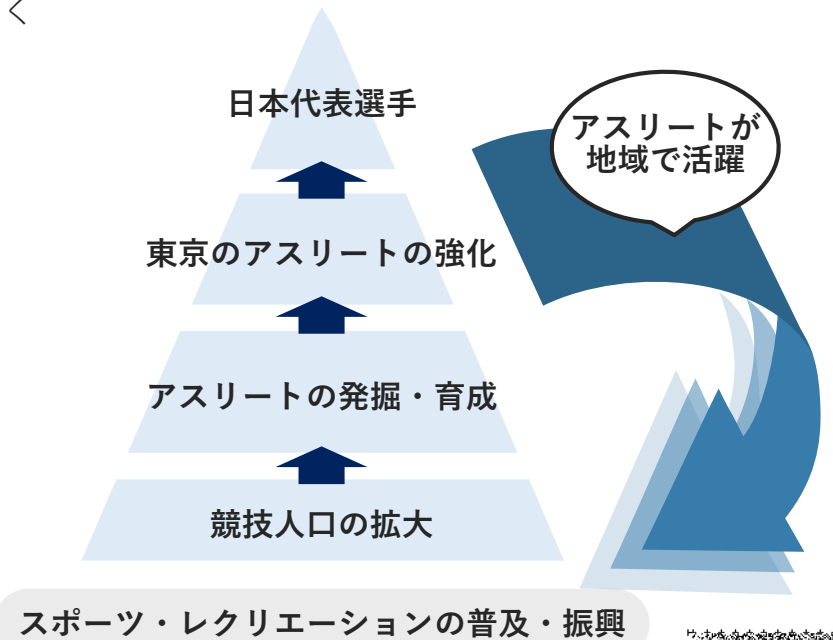


東京のアスリート

## 今後の取組

東京のアスリートを強化し、競技力向上の成果を、アスリートの地域での活躍に活かす  
→ スポーツの裾野拡大やスポーツ実施率の向上につなげていく

- **【競技人口の拡大】**
  - ・ 様々な競技の体験会やスポーツ教室を都内の至る所で開催し、競技スポーツを普及
- **【アスリートの発掘・育成】**
  - ・ 東京育ちの新たなトップ選手を輩出するため、次世代のアスリートを発掘し、育成
- **【東京のアスリートの強化】**
  - ・ 一人でも多くの東京のアスリートが全国大会や国際大会などで活躍できるよう支援
  - ・ パラアスリートを支えるスタッフの活動を支援
- **【アスリートが、その経験をもとに地域で活躍】**
  - ・ 東京育ちのアスリートが地域に応援され、活躍することで、スポーツを推進
  - ・ 女性アスリートの活躍や、スポーツ・インテグリティの推進を支援





# 6 ボランティア文化の定着

暑い日差しの下でも雨の中でも、ボランティアの真摯な姿勢と温かい笑顔が大会を支えた。

## ボランティア気運の高まり

応募者約24万人  
1年延期後も約8.3万人が参加  
ロンドン・リオ大会を上回る

## 国内外から寄せられた感謝や称賛の声

あらゆる日本人ボランティアが本当に素晴らしかった。瞳の中に微笑みがあり、大きなものを与えてもらった。

- Kimberly Daniels (カナダ) カナダ

出典：Athletes from around the world offer praise and thanks to Tokyo and Japan  
<https://olympics.com/ioc/news/athletes-from-around-the-world-offer-praise-and-thanks-to-tokyo-and-japan>

子どもたちをあたたかく出迎えてくださり本当にありがとうございました。子どもたちの感想に「道でたくさん手をふってくれて、うれしかった」等の言葉が驚くほどたくさんありました。 - 学校連携観戦の引率教員



大会を契機に大きく高まったボランティア活動への気運。  
経験や人材の厚い蓄積を将来に受け継ぎ、ボランティア文化の定着と共助社会の実現につなげていく。

## これまでを振り返って

- **大会での多様なボランティアの活躍**  
年齢、性別、障害の有無に関わらず誰もが安全・安心に活躍できる環境を提供  
研修等を通じ多様性への理解を深める  
交流機会の提供等を通じ参加気運を維持  
→ 約8.3万人のボランティアが大会をサポート
- **大会後の参加意向**  
シティキャストの96%、フィールドキャストの83%  
→ 大多数が活動継続の意向あり

### ボランティア参加者の声

- ・ 大会に関わることができ良かった。また活動へ参加したい。
- ・ ボランティア参加を通じ大会の理念やダイバーシティへの理解が進んだ。



### 東京ボランティア レガシーネットワーク

ボランティア文化定着のため、様々な活動の魅力を発信、体験を共有、交流の場を提供  
<https://www.tokyo-vln.jp/>

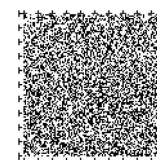
## 今後の取組

- **【ボランティア気運をつなげる】多彩な情報・活動フィールドの提供**
  - ・ 「東京ボランティアレガシーネットワーク」により活動情報や交流の場を継続的に提供
  - ・ 「TOKYO障スポ&サポート」によりパラスポーツと支える人材の間をつなぐ
- **【スポーツを支える活動の充実】スポーツ分野の活動機会の確保**
  - ・ 大会のレガシーイベント（周年行事や東京レガシーハーフマラソン）や都実施スポーツイベント等での活動機会確保
- **【ボランティアマインドの更なる醸成】各学校でのボランティア活動の実施**
  - ・ シティキャストユニフォームを活用し、学校が設定したボランティア活動を実施
  - ・ 学校が取り組んできた多彩な取組を継承
- **【大会の経験を未来へ】大会で得られた経験・ノウハウの発信**
  - ・ 大会で活躍したボランティア本人が経験ノウハウを発信する機会を確保（講演・ウェブ等）
  - ・ 地域の団体等の参考となるよう運営から得られた経験や運営システムのノウハウを発信



### TOKYO障スポ&サポート

障害者スポーツを後押しするため、障害者スポーツ事業に係るボランティア活動や講習等を配信  
<https://www.tokyo-ss.net/>



ボランティア参加の拡大を通じ、ボランティア文化の定着を図る





都市鉱山からつくる！みんなのメダルプロジェクト  
回収した小型家電でメダル約5,000個を製造

被災県産の花を使用したビクトリーブーケ

世界初の水素聖火台

# 7 未来へのメッセージ

大会を彩った様々な品々。  
未来に引き継ぐ  
重要なメッセージが込められた。



©Tokyo 2020 / Shugo TAKEMI

©Tokyo 2020

©Tokyo 2020 / Shugo TAKEMI

27 全国の店舗や学校で廃プラスチックを回収  
表彰台に生まれ変わった

復興仮設住宅のアルミ廃材を使用  
大会史上初、水素を燃料に使用した聖火リレー torch

多摩産材で作られたムラール  
平和や共生社会実現への願いを込めて選手が署名

大会は、スポーツの素晴らしさ、被災地復興、持続可能性、多様性の尊重など重要なメッセージを発信した。これらの努力を記憶と記録に残し未来に継承していく。

## これまでを振り返って

- **大会を象徴するメッセージを発信**  
「都市鉱山」から制作したメダル、廃プラスチックから制作した表彰台、復興モニュメントや被災地で育てられた花を使用したビクトリーブーケ等、一つ一つにメッセージを込めて発信
- **かけがえのない文化遺産・アーカイブ資産保管の枠組み**  
大会の記念品や記録を確実に保存・活用するため、アーカイブ協定を締結

### インフォグラフィックス

大会のレガシーを紹介するインフォグラフィックスを作成、SNS等で効果的に発信



## 今後の取組

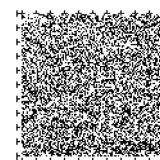
- **【感動と興奮をスポーツ振興に】身近な場所で大会の記憶に触れる場を創出**
  - ・ 大会開催の象徴的な場所にオリンピック・パラリンピックの名称を付与
  - ・ 大会で制作した設置物や銘板等をスポーツや大会に関係の深い場所に設置
  - ・ 地域や学校、スポーツイベント等でアスリートが使用した競技備品等に触れる場を提供
- **【精神を継承する】大会のアーカイブ資産とメッセージを後世に伝達**
  - ・ 大会の記念品を展示や教育の場で活用。ムラール、選手村で使用した段ボールベッド等
  - ・ ビクトリーブーケや聖火リレートーチ等の活用など被災地との絆・交流を承継
  - ・ 大会の記録・文書を適切に保管し、大会開催の努力や取組を将来に伝達
- **【大会のメモリアル】「東京レガシーハーフマラソン」の創設（毎年10月第3日曜）**
  - ・ アスリートも市民ランナーも障害の有無に関わらず誰もが楽しんで走る場を創出
  - ・ 2022年の第1回は、IOCと協力し、「セレブレーションマラソン」に位置付けて実施
- **【開催都市の経験を共有】大会で得た知識や知見を他都市と分かち合う**
  - ・ 将来の開催都市をはじめ他都市と大会での先駆的取組や学びを共有
  - ・ 各会議やフォーラムでのプレゼンテーションや意見交換を実施



東京レガシーハーフマラソン  
(東京マラソン財団主催) コースマップ  
東京2020大会パラリンピック  
マラソンコースを活用（予定）

### 大会1周年記念行事 (2022年7～10月)

大会後1年を契機として、大会の感動を再び思い起こし、その感動をスポーツの実施に結び付けるため、様々なスポーツイベントやセレブレーションマラソンを実施



大会が残した資産とともに込められたメッセージを未来に受け継ぐ

# # ARIGATO



「TOKYO 2020 #ARIGATO」動画



TOKYOスポーツレジャービジョン

2022（令和4）年1月  
東京都オリンピック・パラリンピック準備局

## 都立スポーツ施設の戦略的活用について（TOKYOスポーツレガシービジョンより）

東京2020大会を契機にバージョンアップした都立スポーツ施設等を戦略的に活用していく。

18施設のネットワークで ポテンシャルを最大限発揮
<ul style="list-style-type: none"><li>■ 発信力の強化</li><li>■ ニーズ対応力の強化</li><li>■ 一体的取組によるスポーツ振興</li></ul>

各施設の特徴を活かし、 3つの取組による多様な活用を推進
<ul style="list-style-type: none"><li>■ スポーツでの更なる活用</li><li>■ 多様な活用による新たな体験の提供</li><li>■ 施設・地域との連携</li></ul>



◎ 都民の皆様が届ける価値を最大化	<ul style="list-style-type: none"><li>・大会のレガシーとして、都民にかねがえのない価値を提供</li><li>・一人一人が健康で豊かに暮らせる東京を実現</li></ul>
-------------------	---

## ■ 18施設のネットワーク

大規模な競技大会から  
都民のスポーツ実践まで幅広い活用



夢の島公園  
アーチェリー場



東京アクアティクス  
センター



東京体育館



駒沢オリンピック  
公園総合運動場



東京武道館

スポーツ、エンターテインメントなど  
多様な活動の場



有明アリーナ



武蔵野の森総合  
スポーツプラザ



有明テニスの森公園  
テニス施設



味の素スタジアム

18施設のネットワークで  
ポテンシャルを最大限発揮



海の森水上競技場



大井ふ頭中央海浜公園  
ホッケー競技場



カヌー・スラローム  
センター



東京都障害者総合  
スポーツセンター



東京都多摩障害者  
スポーツセンター



若洲海浜公園  
ヨット訓練所



有明アーバン  
スポーツパーク(仮称)



東京辰巳  
アイスアリーナ(仮称)



東京都パラスポーツ  
トレーニングセンター(仮称)

多様なスポーツ体験を提供  
(水上・氷上・アーバンスポーツなど)

障害者のスポーツの拠点

# 都立スポーツ施設の戦略的活用について

## ご意見いただきたいポイント

### I 18施設のネットワークでポテンシャルを最大限発揮

- ➔ 「発信力の強化」：18施設全体での情報発信を行う上で、どのような効果的手法が考えられるか？
- 「ニーズ対応力の強化」：多様な利用ニーズにきめ細かく応えるために、どのような取組や体制が必要か？
- 「一体的取組によるスポーツ振興」：18施設が一体となったスポーツムーブメントを推進する取組とは？

### II 各施設の特性を活かし、3つの取組による多様な活用を推進

#### ① スポーツでの更なる活用

- ➔ より多くの都民に多様なスポーツ体験や観戦機会を提供するための取組とは？

#### ② 多様な活用による新たな体験機会の提供

- ➔ スポーツに関心のない方にも施設をご利用いただくためにはどのような方策があるか？  
レクリエーション、レジャーなど、多様な活用を図るための具体的方策・先進的な事例とは？

#### ③ 施設・地域との連携

- ➔ 周辺施設や地域と連携し、地域の魅力向上や活性化に寄与するための具体的方策とは？

各施設の戦略的活用について令和4年度の各施設の運営の参考にするとともに、  
令和5年度以降の次期指定管理者の選定に反映させる

# 具体的取組のアイデア例

# I 全18施設のネットワークでポテンシャルを最大限発揮

## 発信力の強化

- 18施設の魅力や仕様、活用事例等を一体的に内外にプロモーション
- 幅広いスポーツ体験機会の総合的な発信

- 例**
- ・ 18施設共通の施設ガイド作成（デジタルブックなど）
  - ・ 施設の3Dビュー+VR映像の拡充
  - ・ 「TOKYO Unique Venues」への掲載
  - ・ LINE等を使った全施設のスポーツ教室やイベントのお知らせ
  - ・ 若者の関心を引くSNS媒体での施設紹介（YouTuberとのコラボなど）
  - ・ 共通ロゴや装飾を使った認知度向上
  - ・ Webサイトを一層分かりやすくしていく（局統合のタイミングなど）



○スポーツTOKYO  
インフォメーション  
（局の情報発信）



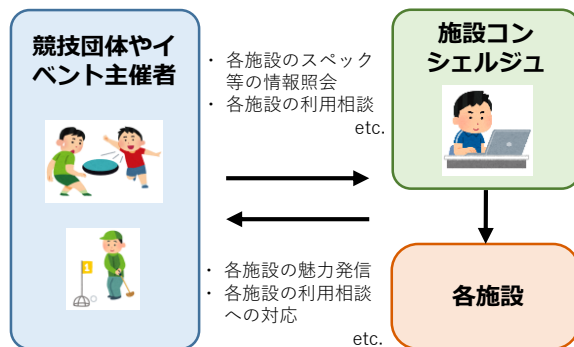
○SPOPIA  
（都内スポーツ情報の発信）

## ニーズ対応力の強化

- 18施設で多彩な体験機会のメニュー化
- 相談窓口としての施設コンシェルジュ機能の強化

- 例**
- ・ 子どもから高齢者まで幅広い層に対応したメニューの提供
  - ・ 地域レベルから国際大会まで、様々な種類、種目の大会の受入れ
  - ・ 政策連携団体との連携強化の検討（ネットワークのサポート体制整備）
  - ・ スポーツ用具や東京2020大会アーカイブ資産等の施設間共有
  - ・ 多目的利用を促進する仕組み作り（予約制度の改善）
  - ・ 共通の利用者アンケートの実施と事業への反映

### ▼コンシェルジュ機能



➡ 発信力と合わせ、幅広くニーズに対応

## 一体的取組によるスポーツ振興

- 共通コンセプトによるスポーツイベントの開催
- 複数の施設が連携した大規模大会の開催

- 例**
- ・ 周年事業、スポーツの日記念事業、パラスポーツ等に着目した共通イベント
  - ・ 大会ベニューツアーの開催、修学旅行、合宿等の受入れ
  - ・ 施設スタンプラリー（銘板等を活用）
  - ・ 映像配信システムを活用した複数施設間における同時中継、交流
  - ・ 同一管理者の施設で行われているイベントの他施設への拡大

➢ 女性バレーボール交流会  
（東京体育館、駒沢オリンピック公園総合運動場、東京武道館）

➢ 味スタ感謝デー  
（味の素スタジアム、武蔵野の森総合スポーツプラザ）

- ・ 複数会場使用による大規模大会等の実施

➢ ウィンターカップ  
（東京体育館、駒沢オリンピック公園総合運動場）

➢ WMHマスタースワールドカップ2022 東京（駒沢オリンピック公園総合運動場、大井ふ頭中央海浜公園ホッケー競技場）



# II 各施設の特徴を活かし、多様な活用を推進

①

## スポーツでの 更なる活用

スポーツを「する・みる・支える」場として競技大会での利用、都民利用、アスリートの練習会場としての利用を進め、障害の有無に関わらず、スポーツを通じた都民の健康づくりと競技力向上を推進

### 競技力向上

国際大会や、国内の主要大会など数多くの競技大会の開催、競技団体の練習利用等、アスリートの育成・強化を通じて、競技力向上を図っていく

【想定対象施設】全施設

- 国際大会の誘致・開催や、全国・全都レベルの大会などの開催を通じたアスリートの強化・育成 など



- 合宿・練習利用のほか、国内競技の強化拠点化、学校の部活動での利用 など



### 多様なスポーツ利用

子どもから高齢者まで幅広い層が楽しめる多様な体験機会を提供することで、スポーツを通じた都民の健康づくりを推進していく

【想定対象施設】全施設

- ニュースポーツや、水上・氷上スポーツ、アーバンスポーツ、パラスポーツなど、多様なスポーツ・レクリエーション利用の拡大 など



- 初心者や経験者などレベルに応じた体験会等の実施や、オリンピック・パラリンピアンによる教室開催、指導者講習会 など



## ②

### 多様な活用による 新たな体験の提供

各施設の設備・立地や民間のノウハウを活用し、スポーツの新たな魅力を引き出し、  
ていくとともに、エンターテインメントやユニークベニューなど幅広い活用を進め、  
都民に新たな体験を提供

#### ユニークベニュー

ロケ地利用、企業研修、興行イベント誘致などを通じて、施設の多様な活用を  
図っていく

- 広大な陸上エリア、東京湾のダイナミックな景観を活かしたコンサートやレセプションの実施 など



- 企業研修、環境学習やロケ地利用 など



【想定対象施設】海の森水上競技場、カヌー・スラロームセンター、東京体育館、武蔵野の森総合スポーツプラザ、有明テニスの森公園テニス施設 など

- 1964大会からの歴史的つながりや、漫画や映画等とコラボした競技の聖地としてのブランディング など



- マルシェや多摩・島しょ地区の名産品の販売会 など



#### エンターテインメント

スポーツ・文化の拠点として、国際大会やプロリーグの観戦、アーティストのコンサート、各種イベント・ショーなど多種多様なコンテンツを提供していく

- トップアーティストのコンサート、文化・芸術などの各種イベント・ファッションショー など



- プロスポーツチームとの連携による事業展開 など



- eスポーツ大会による新たなスポーツ体験機会の提供 など



- 多摩地域の自然のVR体験、ラジコンヨットレース等、地域の特性を活かした取組 など



# II 各施設の特徴を活かし、多様な活用を推進

## 最先端技術の活用

最先端のIT技術や、高密度Wi-Fiや5G等の通信環境の整備などを活用して、新しいスポーツ体験機会を提供していく

【想定対象施設】東京体育館、東京武道館、若洲海浜公園ヨット訓練所、武蔵野の森総合スポーツプラザ、障害者スポーツセンター、有明アリーナ など

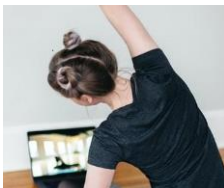
- 映像配信システムを活用したジュニアスポーツや障害者スポーツ観戦環境の提供 など



- XR (VR/AR等) を活用したスポーツ観戦機会の提供、5G環境を活用したハイレベルな練習環境の提供 など



- 障害者eスポーツ (セーリング) 体験や施設に來られない重度障害のある人などに向けたオンライン教室 など



- VR等のデジタル技術を活用した初心者向け武道競技体験 など



## 多様なレジャー体験機会等の提供

新しい都立スポーツ施設、今後誕生する施設を始め、施設の特長を活かし、幅広いレジャー・レクリエーション体験機会等を提供していく

【想定対象施設】若洲海浜公園ヨット訓練所、海の森水上競技場、夢の島公園アーチェリー場、カヌー・スラロームセンター、東京アクアティクスセンター など

- 水域でのヨット、ドラゴンボート、スタンドアップパドルボート、ラフティング体験、水上遊具を使ったレジャー体験 など



- 食 (ケータリング等) とスポーツアクティビティをセットにした非日常の体験 など



## ③

### 施設・地域との連携

他のスポーツ施設とのネットワークや、周辺施設、地域との連携を深め、多様なニーズに対応するとともに、地域からのスポーツ振興に加え、地域の魅力向上や活性化に寄与

#### 施設間連携

スポーツ施設間の連携はもとより、スポーツ施設以外の施設との連携も積極的に展開し、多様なニーズに応えるとともに、利用者サービス向上を図っていく

- 近隣公園と連携した各種イベントの開催（ウォーキング、音楽、キャンプ）や、ランニングステーション、共通チケット制の活用など



- 近隣施設や自治体、企業と連携したスポーツイベント等の実施・拡充 など



- 障害者スポーツセンター、東京都パラスポーツトレーニングセンターと連携した各施設におけるパラスポーツの普及振興 など



- 複数会場を使用(連携)した大規模国際大会等の誘致支援 など



#### 地域との連携

地域の団体や地元自治体等と連携して地域におけるスポーツ活動をはじめ、様々な事業を展開することで、人と人との交流を促進し、地域・経済の活性化へとつなげていく

- 近隣大学・商店街・ボランティア等と連携したスポーツイベントやマルシェ など



- 空き研修室等のコミュニティスペースの利用や地域住民を交えた地域交流事業の実施 など

- 総合型地域スポーツクラブとしての活用 など



- 周辺大学と連携した地域住民向け講座やワークショップの実施 など



【想定対象施設】東京体育館、駒沢オリンピック公園総合運動場、東京武道館、武蔵野の森総合スポーツプラザ、障害者スポーツセンター、大井ホッケー競技場、味の素スタジアム、有明アリーナ、東京辰巳アイスアリーナ（仮称）など

【想定対象施設】東京体育館、東京武道館、武蔵野の森総合スポーツプラザ、海の森水上競技場、障害者スポーツセンター など

## スポーツツーリズム

地域、関係機関と連携し、国内外からの誘客・消費拡大を促進。地域が持つ観光資源とスポーツとを掛け合わせて施設の利用促進や、地域の活性化につなげていく

【想定対象施設】東京武道館、若洲海浜公園ヨット訓練所、海の森水上競技場、カヌー・スラロームセンター、大井ふ頭中央海浜公園ホッケー競技場 など

- 東京2020大会のレガシーを活かし、競技会場等を巡るベニューツアー（施設見学会）を実施 など



- スポーツ施設間で連携した合宿、修学旅行や企業研修の誘致、地元区、まち協等と連携したスポーツツーリズム など



- 「弓道体験×はかまの着付体験×茶道体験」などの施設特性を活用した武道ツーリズム など

